

広報

2007

ひまわり 4

No.536

主な内容

特集「平糠の雪がとけるころに」29
町長施政方針・・・・・・・・・・12
教育委員長施政方針・・・・・・・・20
一般会計予算・・・・・・・・・・22
まちの話題・・・・・・・・・・25
みんなの広場・・・・・・・・・・26



「よろしくね」

平糠小学校にて。4月から、小鳥谷小学校での学校生活が始まります。友達もたくさんでとても楽しみねだね(29)



地域から学校がなくなる -
このことは地域にとって、大きな意味を持っています
学校は単に「子どもの教育の場」というだけでなく、
地域にとって、大きなよりどころになっています
つらく、大きな決断でしたが
「すべては子どもたちのため」
平糠小学校の閉校という決断から見える
地域や学校、子どもたちの取り組み、
そして、それぞれが持つ意味を考えてみましょう

特集

平糠の雪が とけるころに...



平糠小学校「感謝の会」、児童、先生、地域の人とともに（2月21日）

平糠小学校が 一三〇年の歴史に 幕を閉じました――

今 年三月、平糠小学校（吉田牧子校長）が小鳥谷小学校（熊谷紀子校長）に統合され、閉校しました。

これは昨年の九月議会で「一戸町立学校設置条例の一部を改正する条例」が可決され、今年四月一日から施行されたものです。

平糠小学校では最終年度である平成十八年度の児童は全校で十一人（男子七人、女子四人）、一年生と四年生、六年生の各学年は一人でした。

学級は一・二年生（四人）、三・四年生（三人）、五・六年生（四人）の複式学級が三つでした。最後の入学生と卒業生はともに一人でした。

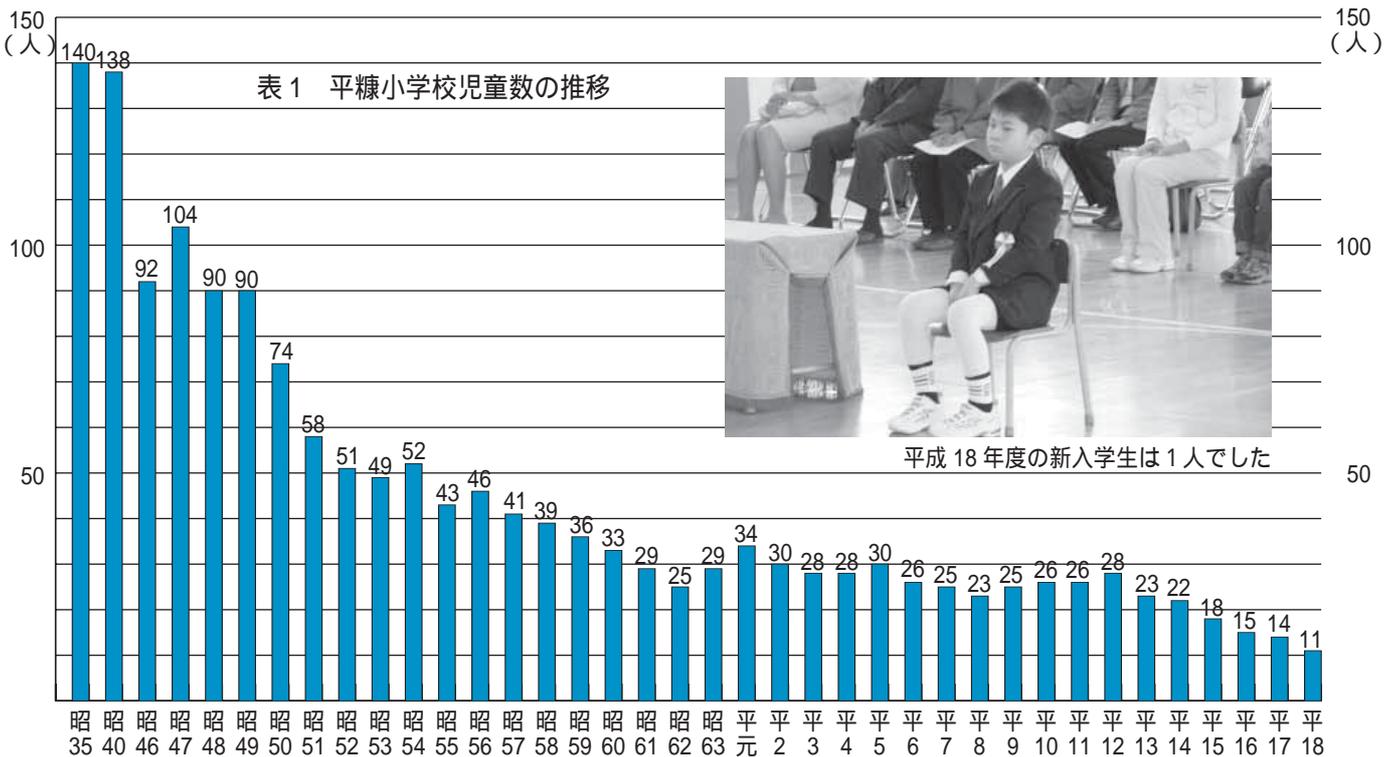
昭和三十五年からの全校児童数は下の表1のようになっています。

昭和三十五年には一四〇人いた児童数が急激に減少し、昭和四十六年には全校の児童数が百人を切りました。昭和四十八年から一部に複式学級が取り入れられ、その後も児童数は減少を続けました。

昭和五十八年から児童数は二〇～三〇人台で推移し、平成十五年からはついに二〇人を切りました。

地域や保護者から子どもたちにより良い環境を考えると学校統合同もやむをえないと言う声が続々と高まり、地区懇談会等で話し合いを重ねてきた結果、小鳥谷小学校への統合という結論に達しました。

そこで平糠地区では平糠小学校閉校対策委員会（川向昭蔵委員長）が組織され、統合にかかわる地区民からの要望



特集「平糠の雪がとけるころに...」

地域の教育にかける熱意には感動 その力なくして、現在はなかった

平糠小学校 吉田牧子校長

平成 19 年度は入学者がいないという話が出た
ころから具体的に閉校という話が出ました。

実際、児童 1 人の学年が 3 学年あり、同級生
がいないため、役割分担するとどうしても高学
年に負担がかかるなどという現状がありました。

閉校が決まり、最後の 1 年は学習の力をつける、
平糠のことを今以上に勉強しよう、思い出づく
りの 1 年にしようといふみんなで話し合い、積極
的に活動しました。

子どもたちには地域の励ましや見守りに感謝
の気持ちを持ってがんばって欲しいです。そし
て、たくさんの友達を得ること、友達と手をつ
なぐことを喜びに、新しい時代を進んで欲しい
と思います。

心配な部分はありません。みんな、力もつい
たと思っています。いろいろな人と交流する中
で、素直にその力を発揮して欲しいです。

地域の人が私財を投じて開校したという学校
の沿革や地域の活動にふれて、改めて教育に注
ぐ力が綿々と受け継がれているのを感じました。

開校にかけたときと同じ情熱を持って、良い
環境を子どもたちに与えるため、閉校という英
断をしてくれたと思います。

地域の方々には、これまでと変わらず、子
どもたちを温かく見守ってもらえれば、うれし
く思います。子どもたちもその温かい気持ちを受
けて、大きく成長してもらいたいと思います。

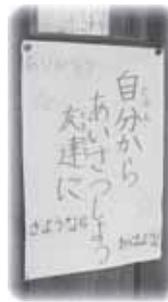
私も子どもたちが伸び伸びと活動している姿
を見ることができればそれで十分です。



小学 3・4 年生の授業の様子

について調査、検討し、その
 まとめを進めました。
 地区から出された要望は、
 一つは児童の安全な通学が保
 障されること、もう一つは永
 年にわたり地域文化の中心
 な役割を果たしてきた学校が
 なくなることで、地域の活力
 が低下しないように配慮して
 欲しいということでした。
 学校の統合について、この
 要望を町に要請することで、
 学区の住民のほぼ全世帯から
 同意と署名がなされました。

そして、昨年の五月三十日、
 川向昭蔵委員長は要望書を
 町、町教育委員会、町議会に
 提出しました。
 主な要望は次の通りです。
 ・児童の通学のためにスクー
 ルバスを運行して欲しい
 ・校庭を運動会や盆踊りの開
 催場所、子どもたちの遊び
 場として、これまでどおり
 利用させて欲しい
 ・安全・衛生面から校舎など
 の建物（講堂を除く）を撤
 去して欲しい



④昇降口、児童数の減少がかいま見えます
⑤給食の後はみんなで歯みがきタイムです



- ④建設中の平糠小・中学校で屋根の上にて。大らかな時代でした（昭和33年ころ）
 - ⑤昭和25年に行われたクリスマス会。当時の生活の様子や子どもたちに注ぐ愛情の深さが伺えます
- 上の3点の貴重な写真は平糠小学校よりお借りしました



平糠小学校 130年の歩み

- | | |
|-----------|-------------------------------|
| 明治 10年 7月 | 平糠尋常小学校創立 |
| 11年 9月 | 校舎新築（平糠字高間木 38-1） |
| 43年 7月 | 校舎新築（平糠字東 30-2） |
| 大正 2年 4月 | 落合教育所設置 |
| 8年 6月 | 落合分教室新築落成 |
| 昭和 16年 4月 | 平糠国民学校と改称 |
| 18年 4月 | 高等科設置 |
| 22年 4月 | 学制改革により平糠小学校と改称 |
| 5月 | 小鳥谷中学校平糠分教室を設置 |
| 27年 8月 | 中学校校舎落成 |
| 28年 4月 | 平糠中学校分教室より昇格独立、平糠小学校に併設 |
| 32年 11月 | 町村合併により、一戸町立平糠小学校・平糠中学校となる |
| 33年 5月 | 小学校校舎改築並びに講堂新築落成 |
| 11月 | 校章、校歌制定 |
| 47年 4月 | 落合分校廃止統合、スクールバス運行開始 |
| 50年 7月 | 学校プール新築落成 |
| 52年 10月 | 平糠小学校百周年記念式典遂行 |
| 63年 7月 | 落合記念碑建立、プール改築落成 |
| 平成 元年 11月 | 岩手県教育委員会「学校教育賞」受賞 |
| 11年 4月 | 複式3学級（児童数26名、教職員数7名） |
| 12年 3月 | 平糠中学校閉校 |
| 4月 | 小鳥谷中学校へ統合 |
| 17年 7月 | 47年間の併設校にピリオド |
| 18年 3月 | 小学校単独校となる（児童数28名、教職員数7名） |
| | 豊かな体験推進事業指定（黒崎小・鳥茂渡小との交流体験実施） |
| | 平糠少年消防クラブ、岩手県消防協会一般協力団体感謝状受賞 |

平糠小学校が
地域と共に歩んだ
その歴史にふれる

平 糠小学校は平糠川と落合川の合流点に位置し、

学区は両河川に沿い、細長く広がり、集落が散在しています。

明治四年に藩がなくなり、県が置かれ、文部省が創設さ

れました。教育の面は藩学校、

寺子屋の時代から近代学校の成立に向かいました。

一戸でも寺子屋の基盤の上に学校の創設が始まり、平糠尋常小学校は明治十年七月に誕生しました。

創立時は東の大屋である畠

私も平糠小を卒業です

学校用務員を18年間務めた
林野 マサさん
この花は今日、卒業した高平友美さんからもらいました。冬の除雪は大変でしたが、子どもたちの元気な声を励みに休むことなく、務めました。みなさんのおかげでした。



心のどこかに今の時代の幸せを感じてもらえればと思います

平糠小学校 学校評議員 柿本金次郎さん

私は昭和11年生まれます。平糠小学校で過ごしたころは校舎も現在と違う場所にありました。教室は講堂をついたてで4つに仕切り、1クラス30人ほどの学級で使っていました。

私が小学生の当時は戦争中で、食べ物も十分でない時代。山に入るとは、ふきなどの山菜を採り、泥を洗って乾燥させました。それは軍隊に提供するためだったと記憶しています。

着るものも十分とは言えず、1年に1度だけ配給されました。ただし、児童全員分ではなく、くじ引きで配給の順番を決めました。足りない着物を補うために、桑の木の皮をむいて乾燥させ、繊維を取り出しました。

戦争に行く兵隊さんをみんなで見送り、空襲が来ては、防空壕(戦火を逃れるための穴)に逃げ込みました。中学校では戦うためになぎなたを習いました。子守りや畑仕事など、家の手伝いでクラス仲間もそろふことはなかったです。

そういう時代も経て、平糠小学校は閉校するわけですが、子どもたちには今の時代の幸せを心のどこかに持って置いて欲しいと思います。

今の子どもたちは昔にくらべ、外との交流が盛んだと思います。小鳥谷小学校や外の地域との交流も積極的に行っていると聞いています。

今の平糠小学校の子どもたちはずっと少人数で、平糠にいたので不安があるとは思いますが。小鳥谷小学校に行っても、友達をたくさん作って、いろいろな事に早く慣れて、一生懸命がんばってもらいたいです。



地域で行った運動会の記念撮影(昭和30年ころ)



山重吉氏が私財の小屋を提供して校舎にし、七・八人の男子児童が座学をしました。また、左記の柿木さんは「校舎の新築にあたって、地区民の人が協力して、山から木を切り出し、その場で製材をしたんだよ。道路も悪かったので、みんなで背負うなどして、学校まで持ってきて、地元の大工さんが組み立てた。私たちも児童の時には学校林の植樹や下刈りをしたんだよ。」と教えてくれました。

地元消防団が学校の除雪や水道を確保したり、青年団が校庭の整地を行いました。次第に少子化の影響が平糠にも押し寄せ、地域が愛した学校は昭和二十九年から小中併設校となり、平成十二年には平糠中が統合されました。「子どもたちにより良い教育環境を」という地域の熱意で困難を乗り越え、誕生した平糠小学校は、同じ熱意を持って、その役割を終えよう

今後も声かけ続けたい

地域で子どもたちを見守る
関口 トキ子さん

児童がかばんにかけた鈴を鳴らし、登下校する姿を見られなくなるのはさみしいです。私も地域の人に育ててもらっていました。今後も声かけなどできることをしていきます。



きみしいが、子どもたちのため。
今後も地域の子に変わりはない

平糠小学校 PTA 会長 川向昭蔵さん

平糠小学校統合については昨年3月のPTA総会で話し合いました。

平糠小のPTAは児童の父母だけでなく、地区の全世帯、80数世帯が加入して活動しています。PTAを運営していくために、全戸から活動や会費などご協力いただいています。

PTA総会では「きみしいが、子どもたちのためやむをえない」と統合という結論に反対意見はなく、そこには理解がありました。

平糠中学校はすでに統合となり、数年が経ちました。地域の児童が減り、みんなが仲良くなるということは良い事ですが、さらに集団生活の中でお互いを高め合うなど、さまざまな経験をしてもらいたいと思います。子どもたちには最初は大変だと思いますが、自分たちの個性を出して今まで以上に勉強や学校生活に励んでもらいたいです。

学校の先生方にも行事ごとに頼るところがとて大きかったです。地域の方にも草刈りや道路のU字溝入れなど行事一つひとつにご協力いただき、学校や地域には感謝が尽きません。

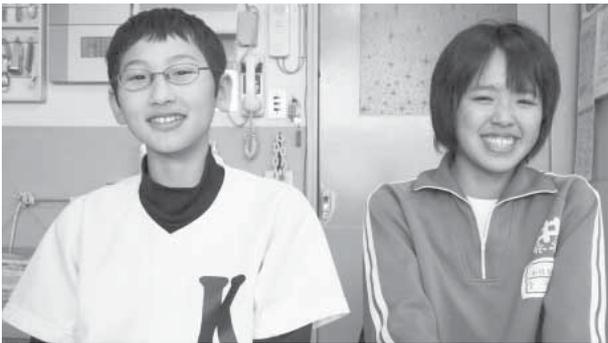
地域から学校がなくなるということは地域に集まりやよりどころが少なくなるというとてもつらい選択でした。

しかし、学校はなくなっても地域の子もたちであることに変わりありません。育成会などは残り、今後も小学校の講堂は活動に使わせてもらう予定です。地域の行事を続け、子どもたちの元気な声を聞くのが今から楽しみです。

地域と学校が ともに育んだ つながりとは？

平 糠小学校の校庭では地区運動会や盆踊りが行われていきます。運動会は地域だけでなく、学校行事としても行われ、まさに地域と学校の交流の場でもありました。

集まる人は小学生や保護者だけでなく、園児や平糠小学校の卒業生、そしておじいさん、おばあさんたち。まさに老若男女が一同に集い、楽しい時間を過ごしています。



地域の行事にみんなで楽しく参加しています

小島谷中学校 1年
川向 智仁さん

小島谷中学校 1年
柿木 望里さん

平糠地区の運動会など地域の行事に、みんなで楽しく参加しています。運動会では小学校3～4年生の時に習った「ナニヤトヤラ」の太鼓をたたきました。

運動会だけでなく、盆踊りや魚のつかみ取りなど、みんなで地域の行事を楽しみにしています。今は、自分たちが楽しんでいます、いつかは自分たちも地域の子もたちを楽しませられるような活動をしたいです。

川向さんと柿木さんが母校の閉校にあたり、感想を書いてくれたので紹介します（原文のまま）

僕はこの母校がなくなるということを残念に思います。しかし、平糠小学校では伝統的な行事などを行っていて、とても思い出になりました。

僕は平糠小学校ですごした日々は一生忘れません。平糠小学校に入学でき、とてもうれしかったです。

私達が卒業してすぐに閉校になることが決まり、とても残念でした。

学校生活で一番長い6年間を平糠小学校で学ぶ事ができてよかったです。

平糠小学校を卒業することができて、とても嬉しかったです。

どの児童も学校に行きたいなあと思うような学校にしていきたい

小鳥谷小学校 中村良子前校長

3年ほど前から小鳥谷小学校の児童は平糠小学校の児童といろいろな形で交流してきました。

例えば、2年前は合同でプール学習を行いました。昨年度の1学期には両校の児童がいっしょに七夕の願い事を短冊に書いたり、ゲームをしたりして過ごす「七夕集会」をしましたし、2学期には体育の授業で交流したり、修学旅行やバスで盛岡に見学旅行に行きました。

バスの中や休憩中も、互いに話したり、走り回ったりと両校の児童がとても仲良く交流していたことを思い出します。

平糠小学校の先生からも「平糠小の児童は最初は緊張していたようだが、楽しく安心した様子で帰ってきた」とお聞きしました。

児童だけでなく、平糠小のPTAに活動を紹介したり、先生同士の交流も行いました。

自分たちで言うのもなんですけれど、小鳥谷小学校の子どもたちは気持ちの優しい子が多いと思います。子どもの心の優しさ、広さを持っています。以前に、転校してきた児童もありましたが、すぐに打ち解けられましたし、今回の統合に関しても、あまり心配することはないのかもしれない。

今年度から新たな小鳥谷小学校が始まります。どの子も学校に行きたいなあと思うような学校づくりに向けて教師一同、日々努力していきたいと思っています。

子どもたちにはお互いに助け合いながら、仲良く学校生活を送ってもらいたいと思います。



仲の良い学校にしたい

小鳥谷小学校児童会長
平中 秀明さん

平糠小学校のみんなと初めて会うわけではなく、もう友達になっています。休み時間にスポーツなどをして仲良くしたいです。わからないことはどんどん聞いて欲しいです。

古里を愛するということ意味で名づけられた三十余年の歴史を持つ愛郷会（桂育雄会長）は落合川を利用し、子どもたちと魚つかみ大会を行うなどのイベントを行っています。

平糠小学校では地域の人を通じて、自然や歴史を吸収しようとするさまざまな取り組みを行いました。

そばづくりは地域の人を先生に種まき、刈り取り、そば打ちと季節を通じて、自然や豊

かな感性を大きくしました。平糠小学校と小鳥谷小学校の統合が決まってからは、両校の児童が合同でキャンプを行いました。両校のつながりを深めようと小鳥谷地区公民館（田頭忠館長「当時」）が中心となって行いました。

平糠小学校の歴史は地域と学校、そして子どもたちがともにはぐくんだ歴史でした。学校がなくなっても、その「つながり」は消えることはありません。

- ④地域の人からそばの栽培を学び、貴重な体験をしました
- ④小鳥谷小との合同キャンプ、互いに交流を深めました
- ④運動会、笑顔がはじけました





卒業式

- ④高平さんへ卒業証書を授与
- ⑤見守る先生方
- ⑥在校生から卒業生へ心を込め贈る言葉...



感謝する会

④お世話になった地域の人に感謝状を手渡す⑤みんなで食べる手づくりひつまみ

④会場は約 200 人が集いました⑥児童のお別れの言葉。新たな出発を誓いました

閉校式

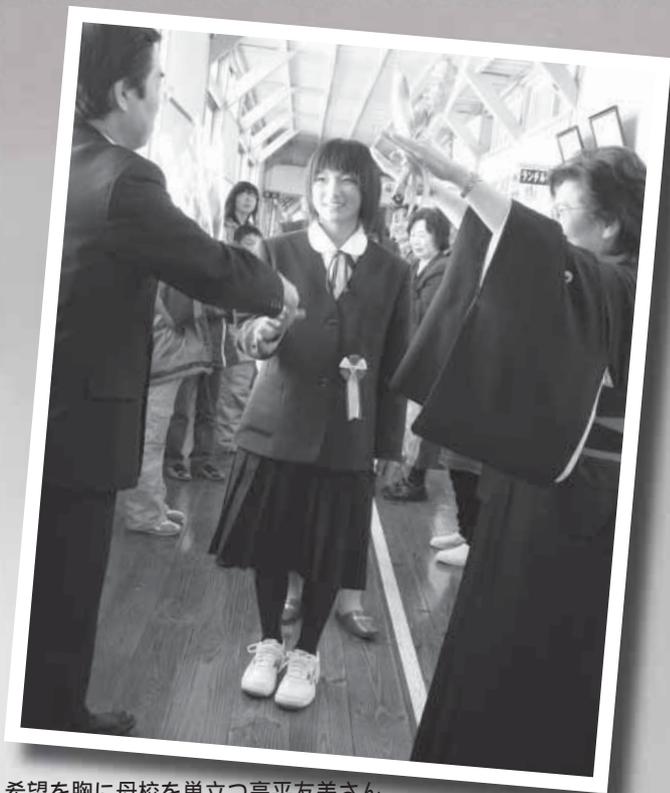


学 校はいつたい誰のもの
で、何のためにあるの
でしょうか？
「学校は子どもたちの教育
の場で、子どもたちのもの」
都市部の学校は、簡単にそう
言いきれぬかもしれません。
しかし、私たちの暮らす地
域では学校をその一言で表す
ことはできないでしょう。
地域と学校の密接な関係は
学校や地域の方の話やその複
雑な表情から伺い知ることが
できます。

閉校を決断 地域の取り組みに 見えてきたもの

地域と学校。地区運動会
盆踊り、学習発表会…。それ
ぞれの行事にお互いを欠かさ
ずすることはできませんでした。
閉校が目前の二月二十一日、
平糠小学校は地域の人に
「感謝する会」を開きました。
自ら感謝状を児童一人ひと
りから手渡し、手づくりひつま
みをいっしょに食べ、楽し
いひとときを過ごしました。
はにかみながら、感謝の気持
ちを伝える児童の姿がそこに
あり、子どもを見守る優しい





希望を胸に母校を巣立つ高平友美さん

山越えて 山越えて
 みどりの風がふいてくる
 丘に立ってるぼくたちに
 光の花の輪を投げて
 希望の風が吹いてくる

(平糠小学校 校歌一番より)

まなざしがありました。

三月十六日、卒業式には最後の卒業生を祝おうと多くの方が訪れました。

平糠小一六六四人目の卒業生、高平友美さんはそれらの気持ちに込めるような立派な態度で式に臨み、六年間の皆勤賞という形で花を添え、新たな出発の時を迎えました。

三月二十五日の閉校式では学校や地域の人が集い、学び舎の閉校を惜しみ、そして胸に刻みました。

昨今、平糠地域のみならず、町内全域で少子化が進み、さまざまな形で影響が出ているのは明らかな事実です。

同級生がいない、その状況が子どもたちにとって、本当に良い状況なのか？学校が無くなり、地域の活性化をどのように図っていけば良いか？

平糠地区の方は自分たちの地区の現状に真正面から向かい合い、何が最も大切なのかという議論を重ね、子どもたちのために「閉校」という結論を出しました。

そしてまっすぐに地域の未

来を見つめ、今後の地域の活性化に必要なことを話し合い、取り組んできました。

取材中、子どもたちは「小鳥谷小学校に行くの、すごい楽しみだよ。だって、友達もたくさんいるしね。」と満面の笑顔で教えてくれました。

子どもたちのこの言葉や表情が、今回の閉校に対して行ってきた地域や学校の取り組みの成果を何よりも表しているのではないのでしょうか？

自分たちで考えて、自分たちで行動するという地域力、子どもたちに注ぐ愛情の深さやそのぬくもりが今回の閉校からさまざまな形でつきりと見えてきました。

今後、いろいろな問題が出てくるかもしれませんが、

しかし、これまでも地域はそれを乗り越えてきましたし、今後も乗り越えていくことでしょう。

平糠の雪がとけるころ、きっと、たくさん笑顔の花が大きく咲くことでしょう。

子どもたちはそれぞれの第1歩を今、力強く踏み出しました

- ⑤小鳥谷中入学式(4月6日)
「新入生、誓いの言葉」
- ⑥小鳥谷小始業式(4月5日)
「新しい仲間の紹介」



町長施政方針（要旨）

三月の町議会定例会で平成十九年度の町長施政方針演説が行われ、冒頭で

「地域社会の原動力はその主人公である住民の方々の意識改革を伴った生活習慣の変更そのものです。産業おこしや教育などの課題解決への取り組みは、低予算あるいは無予算事業でできると思っています。住民の皆様が意識を変え、生活習慣を見直して行動し始めると、最初ゆっくりでも着実に効果を上げていきます。そのため、必要な改革を断行し、町民の皆様が町政を真に自らのものとして感じられるよう、全力で町政運営に取り組んでいきたい」と述べました。



まちづくりの取組み方針（開発計画・地域づくり・住民協働・情報化）

平成十一年度からの第四次一戸町総合開発計画（下段に説明あり。以下、色付文字は同様）も、策定から九年、後期基本計画の四年目を迎え終盤へさしかかってきました。

これまでの計画期間中には、社会情勢や住民価値観の变革、多様化、高度化などの大きな変化がありました。が、今後においてもその傾向はよ

り顕著になり、より効率的な行政執行が求められるものと考えています。

そのような変化に対応し、一戸町の将来の方向性を示すために、住民ニーズを伺いながら、第五次となる総合開発計画策定の準備に着手していきます。

協働という形で地域の活性化を図る目的で創設した「きりり21プラン・地域づくり支援事業」については、地域活動の基盤整備へ寄与した事業

でしたが、平成十九年度は二地区を残し、ほとんどの地区で完了します。

また、「地域活動自立促進ステップアップ事業」は、審査員から事業の企画を評価される仕組みが、改めて地域の魅力を見出し、そして情報発信へと繋がり、それによって地域の良さを伸ばす活動へ発展するという、良い循環が見られはじめています。

今後は、ステップアップ事業やコミュニティビジネスの

手法を取り入れるなど、各地域の特色を活かした活動を展開し、さらに地域の魅力を高め、持続可能な取り組みへ支援していきます。

町民と行政がパートナーとして協働していくためには、積極的な情報の提供と共有、それに基づく対話が必要となってきました。

平成十八年度には、女鹿地区における食生活改善推進員の養成講座や、面岸地区における課題解決と活性化策等

用語解説

総合開発計画

平成十一年度を初年度とし、二十年度を目標年度とする、町の最上位の計画。まちづくりにおける町民の共通目標や、財政の基本指針を明らかにするものです。

地域活動自立促進ステップアップ事業

各地域の活動をさらに活性



昨年は地域団体に貸し出す除雪機械を購入しました

を協議する懇談会の開催など、直接地域に向いての具体的な話し合いが持たれています。このように、行政と地域とが直接対話することにより、地域で困っていること、目が向く、行政に対して要請・要望する機会が持てる、さらには、自らが取り組める部分を考える、といった方向に進んでいくものと確信しています。

このような事例を平成十九年度においてはさらに多くし、両者のパートナー意識の高揚

と、実績の積み重ねによる住民と職員の自信創出にも繋がるよう取り組んでいきます。

なお、地域担当職員については、先行事例として、面岸地区に配置する予定ですが、順次各地へも配置を進めていきます。

そして、地域にとって顔の見える役場職員となるよう、地域を牽引するリーダーの一人として活動するよう、促していきます。

また、住民協働の事例として、町道の簡易整備や除雪作業体制などが生まれ、さらに、月館長沢田地区の小規模土地改良事業の取り組みもできていますので、このような成果を積み重ね、積極的に他の地域にも発信し、これに続く地域が増えていくことを期待するものです。

このように、一部ですが住民協働の機運が見え始めてきた今、これを育てるためには町内会等の自治組織の強化が不可欠です。地域づくり支援事業や地域活動自立促進ステッパアップ事業を通じて、

地域活動への参加意識が深まってきてますので、各種助成事業の情報や他地域の活動事例などの材料を提供しながら、住民との協働によるまちづくりを進めていきます。

情報化の推進については、昨年、奥中山、小鳥谷地区で**ブロードバンド・サービス**が開始されました。これにより、町内のブロードバンドの人口カバー率が85%を超えたことから、行政においては、従来の情報発信型から、双方向型へとシフトする必要があると考えております。そのため、

平成十九年度は光ファイバー等の情報基盤整備を行い、生活により密着した情報施策を展開していきます。

なお、平成二十三年七月に完全移行する**テレビ放送のデジタル化**への対応は、共同受信施設による視聴世帯が多いことから、情報収集に努め、必要な情報提供を行なっていきます。

保健・医療・福祉分野
健康づくりの基本は、「自

分の健康は自分でつくる」ということですが、個々の取り組みよりも、地域で取り組むことによって、きっかけや習慣が出来、多くの方が意識的に取り組んでいけるものと考えています。

そのため、町内会などの活動の中に、健康づくり活動を組み入れていただくよう働きかけ、地域活動としての健康づくりの育成、支援に取り組んでいるところです。そして、この取り組みを全町的に発展させたいと考えています。

また同時に、住民健診の受診しやすい環境も整え、受診率の向上を図るとともに、事後指導を徹底して行なうなどして、医療給付費の縮減にもつなげたいと考えています。

母子保健につきましては、少子化対策として妊産婦の無料健診の回数を増やすなど、乳幼児健診や母子相談事業の充実を図っていきます。そして、子育て支援として、育児サークル活動などを継続していきたいと考えています。

児童福祉については、平成

化する目的で実施しているものです。

主な特徴はそれぞれの団体が行いたいことを審査員の前で発表し、その結果に基づき、補助額を確定します。

ブロードバンド

日本語で「広い帯域」という意味で、現在は高速インターネット接続の意味で多く使われます。

テレビ放送のデジタル化

映像や音声をもと1のデジタル信号に置き換えて送信することで高品質（映像や雑音が少ない）なテレビ放送を行うことができます。

用語解説

保育料を引き下げ

子育て支援の推進策の一つとして、保護者の経済的負担の軽減のため、保育料の引き下げを行った。

具体的には保育料が月額一万二千元以上の階層について9%減額します。

介護予防事業

主に高齢者が、介護を必要とする状態を未然に防ぎ、いつまでも健康で生き生きとした生活を送れるよう支援するための事業です。

一般の高齢者を対象とした各地域での健康づくり教室や、運動・栄養・口腔・閉じこもり・認知症・うつ病予防など高齢者の状況に応じた教室や訪問を行っています。

障害者自立支援法

これまで町などで決めていたサービスを利用者が支援の必要度に応じてサービスを利用できるようにするもの。

年十二月末には使用できるように努力します。

水道事業会計の収支については、平成十八年度も約千万円の純利益を予定し、累計で約一億八千万円の利益剰余金を見込んでおり、引き続き効率経営を心掛けていきます。

汚水処理事業については、はじめに公共下水道事業ですが、排水可能な区域が133haに拡大され、町の中心部は概ね整備されつつあります。

供用開始した区域の水洗化状況は、平成十九年一月末で接続戸数489戸、水洗化率39.2%で事業に対する町民の理解が着実に高まってきていると判断しています。

平成十九年度は使用料収入の増加を目指し、大型事業所や集合住宅等が密集している越田橋地区を中心に本管整備を行なうこととしています。

なお、昨年十月末に完成した終末処理場の汚泥減量化設備は、慣らし運転後の安定化を図っており、当初見込んだ効果の発現が確認されつつあります。

介護予防事業は町内各地で特色を生かした取り組みが行われてます(裏表紙参照)



十八年度に保育料を引き下げ、保護者負担の軽減を図ってきましたが、引き続き保育環境の充実に努めるとともに、児童虐待等が発生した場合の相談体制を整えていきます。

高齢者福祉については介護保険制度において、保健事業や介護予防事業を通じて、要介護者を増やさないようにする取り組みが最重要課題であり、継続して力を入れるべき事業と考えています。そのため、先に申しました

ように、地域の健康づくり活動を通して、予防事業に取り組んでいきます。

なお、鳥海地区と奥中山地区にデイサービスと介護支援ハウスを併設した施設を町内の社会福祉法人が開設する予定であることを報告します。

障害者福祉については、平成十八年度から障害者自立支援法へ移行されましたが、今後とも制度の普及に努め、障害者の方々のサービスの必要に応じた適切な利用ができるよう支援していきます。

国民健康保険事業については平成十八年度の医療給付費の状況が、このまま推移すると十二億円を超え、前年より四千万円ほど多くなると見込んでおり、平成十九年度も前期高齢者が百名程度増加する要因があることから、さらに5~6%伸びるものと想定しています。

これまで、不足額を基金で充ててきましたが、残高がなくなることから、議員各位並びに被保険者等町民のご理解をいただいて保険料の税率改正を行い、国保財政の健全化を図っていきたくと考えています。

生活環境分野

水道事業については双畑・来田地区の水道工事が平成十八年度で完了し、対象世帯98戸のうち55戸が給水工事を終え、さらにそのうち46戸が使用を開始しています。

また、平糠地区の水道未普及地域解消事業は、平成十九年度中の完成を目指して推進中ですが、具体には平成十九



ごみの発生抑制に向けてみなさんのご協力をお願いします

奥中山地区の農業集落排水事業の水洗化率は73.0%で、浄化槽整備事業については、これまで44基設置し、平成十九年度は14基を予定し、普及拡大に向けた営業活動もさらに強化していきます。

廃棄物処理については平成十八年度のごみ収集量が昨年度に引き続きわずかながら減少傾向ですので、ごみの発生抑制に向けて、町民の皆様のご協力をいただきながら、さらに取り組んでいきます。

また、リサイクルの推進に

ついても、**出前講座**の実施や衛生班の協力を得て分別収集の周知徹底を図るとともに、資源ごみの集団回収の推進を図っていきます。

生活基盤分野

町道整備の主なものは、国道4号小鳥谷バイパスが平成十九年度中に完成する予定であることから、付け替え道路として野中女鹿口線、藤島線の改良工事を行なうこととしています。

また、鳥海トンネル整備については交付金事業の採択を受けた後に詳細設計を行い、平成二十二年度の完成に向け事業を進めていきます。

平成十七年度から県代行で実施しています「いわて子ども森」関連道路については平成二十年度の工事完成に向け順調に進んでいます。

なお、平成十八年に発生した災害の復旧工事については幹線道路を中心に一部発注済で、その他の災害復旧についても順次発注していきます。

国道関係では小鳥谷バイパ

スは順調に工事が進んでおり、予定どおり平成十九年度中の開通となっております。また、バイパス事業とは別に、国道4号「野中橋」が老朽化による架け替えが行なわれることとなり、平成十八年度補正予算に関連予算が計上されたことですので、町としても早期完成に向け協力していきたいと考えています。

県道関係では、国道4号小鳥谷バイパスに取り付け県道一戸葛巻線は用地買収、建物補償が終わり、平成十九年度に工事着手し、バイパスの供用開始に併せて整備される予定です。

また、一戸山形線については、堂ノ前橋架け替え工事が平成十八年度に着手されており、平成二十一年度の工事完成に向け推進されています。

県営街路事業上野西法寺線の第二期工事については、平成十八年度予定の用地補償契約と橋梁下部工は年度内に完了します。いよいよ、平成十九年度は橋梁上部工に着手されることになっていきます。

新市街地に整備予定の中央公園

公園については、平成十九年度事業着手し、住民から意見要望を取り入れた協働による公園づくりを目指し、かつ、予算を極力抑え、手づくりで工夫した公園整備をします。

住宅整備については平成十八年度予算で町営奥中山第一住宅五戸の建替えを行っています。平成十九年四月には完成する予定です。

また、宅地造成計画については住宅供給公社所有地を平成十八年度に取得しましたが、宅地開発需要の調査等を行い、造成計画、分譲価格及び分譲方法を具体的に検討し、できるだけ早い時期に宅地造成等を進めたいと考えています。

産業振興分野

農業振興については、就農人口や生産農業所得額が減少している反面、農業専業を志向する動きが見られる状況にあり、補助事業の導入や支援策により農業構造の改善に努めているところです。

出前講座

ごみの分別を徹底し、リサイクル率の向上とごみ減量化を図るため、水環境課職員が地域の集会に出向いて説明や講義を行う事業です。

ごみの講座のほかに浄化槽設置など家庭の水洗化についても説明します。主に町内会の集会や婦人会の集まりの併せて行っています。開催の要望があれば、水環境課にご連絡ください。

新市街地に整備予定の中央公園

砂森地区（総合保健福祉センター前）に整備予定の公園。面積は約1.9ヘクタール。今年度は事業計画の策定と造成を予定しています。

用語解説

トレーサビリティ

農畜産物の生産者や生産過程情報、食品加工、流通に関する情報を各食品に添付し、食品の履歴をさかのぼって確認しようとするシステムです。

資源循環型農業

家庭から出る生ごみや酪農家から出る家畜のふん尿などをリサイクル資源として、再び堆肥として利用する仕組みの農業のことです。

いわての森林づくり県民税

さまざまな公益的な機能を果たしている森林を守り育てるため、県民税均等割の納税義務者一人当たり千円を負担する税金です。

たいと考えています。

なお、他県での鳥インフルエンザの発生等に鑑み、家畜伝染病等予防対策については、関係機関と連携した啓発・指導等による対策を講じていきます。

町営牧野の運営については、宇別牧野においては、より効率的な運営を図るため、新たに設立された利用組合に指定管理者として委託し、高森牧野については、これまでと同様に、いわて奥中山農協を指定管理者としますが、利用農家との協働による施設補修や簡易な草地の更新を進めるなどして、健全な運営が図られるようにしたいと考えています。

林業振興については、間伐等の推進が課題となっており、平成十八年度から導入された「**いわての森林づくり県民税**」を財源とする間伐等の実施とともに、平成十九年度からさらに五年間実施される「森林整備地域活動支援交付金制度」を活用した森林整備を進めます。

畜産振興は、肉用牛においては肉用牛経営資金支援などにより農家経営の安定を図り、酪農については、優良搾乳牛を育成して安全で質の高い生乳生産の拡大を図り、併せて奥中山高原乳製品のブランド化を推進していきます。



高森牧野についてはいわて奥中山農協を指定管理者とします

を開始していますが、農産物価格の上昇が難しい状況の中で、生産過程を集落営農の仕組みに改善することにより経費の削減を図り、それが農家所得の向上に繋がるものと考えていますので、二戸農業改良普及センターなどの支援を得ながら推進することとしていきます。

さらに、中山間地域等直接支払制度も三地区増加し、全体で十四地区が活動中ですので、こうした地区においても集落営農への発展の可能性を探りながら事業を推進していきたいと考えています。

また、新規就農者の確保対策の重要性が指摘されていますが、町内においてはトマト栽培における新規就農者の確保・育成が徐々に実を結び、町内定住が図られていますので、引き続き推進していきたいと考えています。

冬場の農産物として生産振興を図ってきた菌床しいたけや促成アスパラは、栽培規模・面積が拡大され、販売額も増加し、町農産物の重点品目にも成長していますので、今後も、県単補助事業の積極的な導入による施設整備の支援を行い、更なる生産拡大を図りたいと考えています。また、米の生産調整に関連して、りんどう、トマトへの転換も促進したいと考えています。

さらに、**トレーサビリティ**（栽培履歴の記帳運動）は、消費者の信頼を得るため欠くことのできないものとなっていますので、さらに強化し、安全で安心な農畜産物生産に努めていきます。

集落営農については、平成十八年度に三地区で取り組み

また、基盤整備については
森林基幹道浪打姉帯線並びに
緑資源幹線林道葛巻・田子線
は引き続き事業促進を要請し
ていきたいと思えます。

なお、間伐材等を利用した
木質バイオマスエネルギーの
活用は町内の製材業者と独立
行政法人新エネルギー・産業
技術総合開発機構（NEDO）
との共同研究による「パーク
チップによる製材工場乾燥工
程での熱利用事業」の実証試
験が始まることとなっており、さらなる活用の推進方策
も考えていきます。

次に、国営かんがい排水事
業ですが、平成十九年度には
主要施設の約85%が完成し、
約470haに用水を供給できる状
況になっています。

現在、基幹施設を整備する
国営かんがい排水事業と、末
端施設の整備を行なう県営畑
地帯総合整備事業が並行して
進められています。国営事
業における当初の「大志田ダ
ムから二戸市までパイプライ
ンで送水する」という計画を
取り止める変更に係る同意の

とりまとめと、これらの事業
により造成された施設を引き
受ける土地改良区の設立に向
けた作業を進めていきます。

基本調査の採択を受けた特
定中山間保全整備事業につい
ては、一戸町、二戸市、八幡
平市の馬淵川上流地域をエリ
アとした調査事業が着手され
たところです。

この事業は、ほ場、用排水
路、農林道の整備等、広範な
整備要望に込めることができ
るもので、町の農業振興上有
効で、可能な限り早期に事業
着手できるように取り組んでい
きたいと考えています。

なお、平成十九年度から導
入される農地・水・環境保全
向上対策については、過疎、
高齢化の中で、地域の自助努
力により行なわれている用水
路、耕作道等の維持管理など
の共同活動と営農を側面から
支援するもので、制度を有効
活用して積極的に推進してい
きたいと考えています。

商工業の振興
商業については一戸ショッ
ピングセンター「イコオ」が

順調に売り上げを伸ばしてい
るところですが、さらに地元
購買力確保のため、既存商店
街とショッピングセンターが
連携して取り組むイベントへ
の支援を行います。また、萬
代館などを含めた**歴史的建造
物を地域の宝として有効活用**

するため、商業者を含めた地
域住民との協働による取り組
みを、より一層推進し、個性
的で魅力があり、結果として
集客に結びつくような中心市
街地づくりに努めていきたい
と考えています。

企業誘致については国内の
景気拡大や県内の景気持ち直
しの動きによる投資意欲の高
まり等の状況から、引き続き
一戸インター工業団地への企
業立地促進に向けて、リース
方式や**企業立地優遇措置**のP
Rに努めていきます。

また、盛岡東京電波株式会
社一戸工場は酸化亜鉛単結晶
の生産育成炉が平成二十年ま
でに十基に倍増されることか
ら、数十名の雇用拡大が見込
まれており、新規学卒者等、
若者の地元定着に結びつくも

のと大いに期待しています。

今後とも県と連携しながら
関連産業の集積を目指すこと
もに、地場企業へのサポート
体制も整え、次に続く企業の
発掘、支援に努めていきたい
と考えております。

雇用対策については「**一戸
町中高年雇用奨励金制度**」の
周知を行い中高年者の雇用促
進を図るとともに、昨年、二
戸地区に若者就職支援を目的
に開設された「ジョブカフェ
いわて カシオペア」と協力
し、定期的に就労相談の場を



ジョブカフェいわて カシオペアは二戸地区合同庁舎にあります

**歴史的建造物を地域の宝とし
て有効活用**
中心市街地にある古い建
物（旧三戸銀行や萬代館など）
を利用し、一戸固有の歴史文
化を継承・発信するための調
査事業です。

企業立地優遇措置
町内に工場を新設、または
増設した企業に対し、法令に
基づく一定の範囲内で税金の
減免や利子補給等の交付など
を行うものです。

一戸町中高年雇用奨励金制度
45～60歳までの離職者を
雇用した町内事業者に最大
十二万円（月一万円）の奨励
金を交付する新たな制度で
す。



設けるなど、企業・求職者双方に対しての幅広いフォローアップを行い、低調な雇用情勢の改善へ繋げていきたいと考えています。

観光については、御所野縄文公園など既存観光施設や地域イベントと連携しながら観光客誘致・PRを図るとともに、県北バス等の交通機関とタイアップした観光バスツアーを設けるなどし、また、御所野遺跡を含む北海道、北東北の縄文遺跡群を活用した

ては、コミュニティ・ビジネスを推進したいと考えています。平成十八年度は一戸地区と小島谷地区で計八回の講座を開催し、受講者の個別相談も行っています。

また、事業立ち上げを支援するための助成制度も設け、現在、事業を募集しているところ です。

平成十九年度は採択になった事業についてフォローアップを徹底するとともに、新たな起業の芽を発掘していきたいと考えています。

「北の縄文文化回廊」の世界遺産登録に向けた運動など、新たな地域観光資源の発掘にも取り組んでいきます。

また、スキー場をはじめとする奥中山高原施設につきましては、**指定管理者制度**の導入に向け準備を進めてきましたが、町内への雇用や材料調達など、経済波及効果が期待できる最善の方法をさらに検討していきたいと考えています。

産業おこしの取り組みとし

組んでいきたいと考えています。

また、竹細工や木工などの伝統工芸について、その優れた技術を活かし、世界に通じる工芸品としてデザイン化し、新しい市場を開拓することにも着手したいと考えています。

地産地消の取り組みについては、産直施設「サラダボウル・こずや」の平成十八年度の販売額が一億一千七百万円となり、五年連続で一億円の大台を維持しています。新年度はさらに販売増を目指し、加工部会による商品開発を支援していきたいと考えています。

また、ショッピングセンター内の「イコオ産直」施設についても、一カ月当たりの販売額が平成十七年に比べ25%伸びており、安定経営に向け引き続き支援してまいります。

(平成十九年度一般会計予算概要22頁23頁参照)

用語解説

北の縄文文化回廊

北の縄文文化回廊づくりは、平成十五年の北海道北東北知事サミットの合意にもとづく、北海道・青森県・岩手県・秋田県の4道県合同の事業です。この地域に特徴的な縄文文化を「北の縄文文化回廊」として広く内外にアピールしていくことを目的としています。

来年度は岩手県立博物館と御所野縄文博物館で「北の縄文文化回廊展二〇〇七」を開催いたします。

指定管理者制度

この制度で、これまで公共的団体、または第三セクターだけができた公の施設の管理代行を、町が認める「法人その他の団体（株式会社を含む）」でできるようになりました。

結びに

道路建設等の基盤を整備しなければならぬ時代はお金がかかりましたので、行政主導にならざるを得ませんでした。幸い、主要な基盤整備は一部を除いて終わっています。後は、その自己負担分を着実に返していくことで、財政的な見通しが立ったと考えています。

それを確実化するために、今後の行財政運営においては、しっかりとした組織、しっかりとした意識、意欲を持った人材が必要となります。様々な問題解決のためには、従来のような考え方では解決できないことも多くなっていますので、職員の意識改革を徹底させていきます。

行財政改革の推進については、議会行財政改革推進特別委員会へ取り組み状況を報告しましたように、行財政改革実施計画の中で未検討又は検討中とした項目がありますので、これらについては実施方針を策定したうえで、その内容をご説明したいと考えてい

ます。

特に、**町税等の滞納対策**については、負担する側の不公平感を取り除くのが最重要です。ので、県の滞納整理機構との連携を含め、徴収体制の見直しと各課毎の数値目標を掲げるなどして、重点的に取り組んでいきます。

また、行財政システム改革の一手法と考えている無予算・低予算の事業は徐々に取り組みを始めたところで、提案させていただきます平成十九年度予算に載らない事業も精査していますので、それらを目に見える形で実施していきます。

なお、平成二十一年度までに職員数を20%削減するという目標については順調に進んでおり、減少した職員数で効率よく業務を遂行するために**部制導入**と課・係の再編を実施しましたが、平成十九年度はその効果を検証します。

そして、職員削減に対応した業務の効率化、重点化を図るために、業務の廃止や休止、民営化、外部委託等の仕分け

作業も併せて実施しなければなりませんので、調査研究を進め、予算編成に反映できるよう早期に方法を確立したいと考えています。

最後に、地域住民が主人公の時代である今日、自分の体のこと、自分の子供のこと、自分の生業のことを自己責任を原則として必死に考え、行動する時がやってきたと思います。

また、そのような努力を地域社会全体で認め合い、支え合うことも可能だと思えます。

し、行政は全面的にそれをサポートすべきと考えます。特に、自己責任を果たしづらい弱い立場の方のサポートは、十二分に考えなければいけないと思います。

これからの市町村の差は、これらを徹底してやれるかどうかでついてくると思えます。私は、一戸町民の皆様の知恵と行動力で先頭グループに入ることが必ずできると考えていますので、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

町税等の滞納対策

町税負担の不公平感を取り除くことを最優先に、町単独でも給与、預金、保険等の差し押さえを実施しています。

部制導入

今後減少する職員数においても、課の枠を超えて協力できる体制をつくることと意思決定の迅速化を図るため、複数の課を統括する部を設置しました。具体的には、総務部、「福祉部」、「産業部」、「建設部」の四つの部を設置しました。

今年度もみなさんのご理解とご協力、よろしくお願ひします



教育委員長施政方針（要約）

教育基本目標：一戸の明日を拓く深く豊かな人間性の実現を目指す

3つの柱 特色のある学校
子どもが輝く教育
知性が光る町民への学びの場

学校教育の充実
子どもたちの「生きる力」、
「確かな学力」と「豊かな人間性、社会性」をはぐくみ、たくましい児童・生徒の育成に努めていきます。
基礎基本を身につけ、思考力、表現力、学習意欲などを含みながら、「生きる力」を育成することを基本的なねらいとし、学力向上対策委員会等の教育活動を行い、また、ジョイントティーチャー（学習支援者）の活用も行うなど



特色のある取り組みが各学校で行われています（『学校へ行こう』奥中山小学校）

確かな学力の定着を図ります。
就学前教育は、人間形成の基礎を培う重要な時期で、「一の教育」として基本項目をつくり配布していますが、その実践にむけ取り組みます。
小・中学校の教育
教育の営みは知、徳、体にかかわりながら、そのバランスのとれた心身ともに健康でたくましい人間の育成を志向しており、そこを教

育における不易（いつまでも変わらないこと）の部分と認識しています。
総合的な学習をつうじて「特色のある学校づくり」を工夫し実践します。
四人のALT（外国語指導助手）による英語活動や軽米町と合同で行う中学生の国際交流海外派遣事業や小学校の英語教育をさらにステップアップする研修会などの国際理解教育を推進します。
情報教育は教育用コンピュータの計画的更新やコンピュータ・インターネット活用研究を継続して行います。
特別支援教育は継続して補助員制を取り入れ、学ぶことの喜びを味わってほしいと考えていますし、スクールカウンセラーを配置し、悩んでいる子どもたちへ手をさしあげ、適切な対応を図りたいと考えています。
読書活動とあいさつ運動を重点として心の醸成に努め、一戸町子ども読書活動推進計画の実践に取り組みます。
教育相談や心の相談は引き

続き実施し、子どもの健全育成を支援します。「いじめ」の問題に対しては道徳教育の充実を図るとともに学級生活満足度調査を全小中学校四年以上に実施し、悩みを抱えている子どもたちへ適切な対応を迅速に図ります。
健康、安全指導は、自分の健康に気づき、課題解決に積極的に取り組むたくましい子どもの育成が基本と考えます。心身ともにたくましい子どもの育成を推進するよう三師会との連携を図ります。
学校給食は安全で栄養バランスの撮れた学校給食の実施と地元食材の積極的な導入に努め、子どもに喜ばれる充実した食育を推進します。
安全対策は、不測の事態を予想し、対処について指導の徹底に取り組みます。また、各小学校に設置されている子どもを守る会などとともにスクールガードなどの育成指導と連携を図り、地域ぐるみで子どもを守る体制を充実します。
学校統合は、平糠小学校が



昨年度、大活躍した一戸中学校体操部

小鳥谷小学校と統合しますの
で統合となる学校の子どもた
ちが、喜んで学校生活を送れ
るよう、支援していきます。

生涯学習の推進

町 民一人ひとりが生涯を
通じて主体的に学習し、
自己を高めながら充実した人
生を送れるような生涯学習に
基づいた地域社会を築いてい
くことが期待されています。

特にあたらしいまちづくり
には地域の実情を的確に把握

しながら社会の変化に柔軟に
対応できる、たくましく創造
性に富んだ人材を育成してい
くことが不可欠になっていま
す。

以上のことから、より一層
町長部局と密接な連携を図
り、地域の課題を取り入れな
がら各種事業を見直して、多
様化、高度化してきている社
会の要請に応えていきたいと
考えています。

家庭・学校・地域社会が連
携を密にし、子どもを育てる

ための学習や意識の啓発と実
践に努めます。推進のなかで
「子どもは家庭や学校で教え、
地域で鍛える」をテーマとし
充実させます。

青少年教育はジュニアリー
ダーや地区公民館などと連携
して地域全体で子どもを育て
る運動を推進します。そのた
め各地区に「放課後子ども教
室」を設置したいと考えてます。

十八年三月に策定した「男
女共同参画基本計画」をもと
に、町全体の行動計画につい
て検討し、昨年度に引き続き
意識の啓発や活動の推進を図
りたいと考えています。

公民館活動は中央公民館と
町内四ヶ所の地区公民館を中
心に生涯学習の事業やコミュ
ニティセンターの役割を担っ
ていきたいと考えます。

町立図書館は、「地域を支
える情報拠点」を活動の柱と
し、地域及び住民の支援の充
実を図ります。

芸術文化活動の振興

芸 術文化活動は町民文化
センターやコミュニ

ティセンターなどの施設を利
用し、芸術作品を鑑賞できる
ような機会を提供します。

文化財の保護については御
所野遺跡の世界遺産の登録を
目指して北海道・東北北三

県の連携を強力に進めます。

将来的な特色ある地域づくり
のため、文化財の調査研究や
活用を図っていきます。

社会体育・スポーツの振興

自 分の健康は自分でつ
くる」をモットーと

して、総合運動公園などの社
会体育施設や学校施設を有効
に活用し、町長部局との連携
を図りながら、事業を進めま
す。

将来の体育振興を視野に入
れた場合、総合型地域スポー
ツクラブの立ち上げが重要
で、今年度は一戸・鳥海・小
鳥谷地区を合わせたクラブの
設立を目指して活動します。

文化・スポーツの事業推進
は住民との協働との観点から
施設管理と事業実施をNPO
に委託していますが、十九年
度も行政と連携し、効率的に

活動できるよう支援してい
きます。

最後に、「開かれた学校、
開かれた教育委員会」につい
て申し述べます。

充実した学校教育の実現に
は、学校・家庭・地域社会の
連携協力が不可欠であると考
えます。今後においても学校
評議員制度を学校運営に活か
しながら地域に開かれた信頼
される学校づくりを目指して
いきます。十九年度も学校参
観日「みんなで学校に行こう」
を引き続き実施しますので、
ぜひ参観いただき、それぞ
れの学校の特色を知っていただ
きたいと考えています。

教育改革を推進するため各
学校が積極的に教育活動に取
り組むことが重要で、教
育委員会としても積極的な教
育行政を目指していきます。

以上が教育行政施策の概要
ですが、教育基本法が改正さ
れ、他にさまざまな制度改正
の動きもありますのでこれら
の動向に留意し、望ましい教
育の実現のため、誠心誠意、
取り組みます。

一般会計予算昨年比 5,600 万円減

まちづくりに約 121 億円

一般会計 約 71 億円
 特別会計 約 44 億円
 水道会計 約 6 億円

会計名		19 年度予算	18 年度予算	伸び率
一般会計		71 億 4,200 万円	71 億 9,800 万円	0.8%
特別会計	国民健康保険事業	20 億 9,774 万円	16 億 9,300 万円	23.9%
	索道事業	7,785 万円	7,605 万円	2.4%
	老人保健	16 億 2,106 万円	17 億 4,597 万円	7.2%
	土地取得	239 万円	1,084 万円	78.0%
	工業団地事業	640 万円	648 万円	1.2%
	農業集落排水事業	6,907 万円	7,494 万円	7.9%
	下水道事業	4 億 2,600 万円	4 億 0,974 万円	4.0%
	個別生活排水処理事業	2,032 万円	1,499 万円	35.5%
	国営土地改良施設管理	2,855 万円	2,854 万円	-
	水道事業会計（支出）	5 億 8,518 万円	6 億 3,095 万円	7.3%
合計	120 億 7,656 万円	118 億 8,950 万円	1.6%	

性質別経費の内訳

人件費	13 億 8,892 万円 (19.4%)
物件費	13 億 8,877 万円 (19.4%)
公債費	12 億 9,093 万円 (18.1%)
普通建設事業費	8 億 0,183 万円 (11.2%)
補助費等	8 億 3,371 万円 (11.7%)
繰出金	5 億 8,933 万円 (8.3%)
扶助費	5 億 7,056 万円 (8.0%)
維持補修費	9,664 万円 (1.4%)
その他	1 億 8,131 万円 (2.5%)
計	71 億 4,200 万円 (100%)

平成十九年度の予算の概要
 平成十九年度、一戸町の予算総額は、百二十億七千六百五十六万円で、前年度に比べ約二億円増加しています。

予算の中で、最も多くの割合を占める一般会計は、七十一億四千二百万円、前年比約五千六百万円の減です。（内訳は上表参照）

一般会計の歳入には、町民税、固定資産税、たばこ税などの町税を主とする「自主財源」と、国や県からの補助金

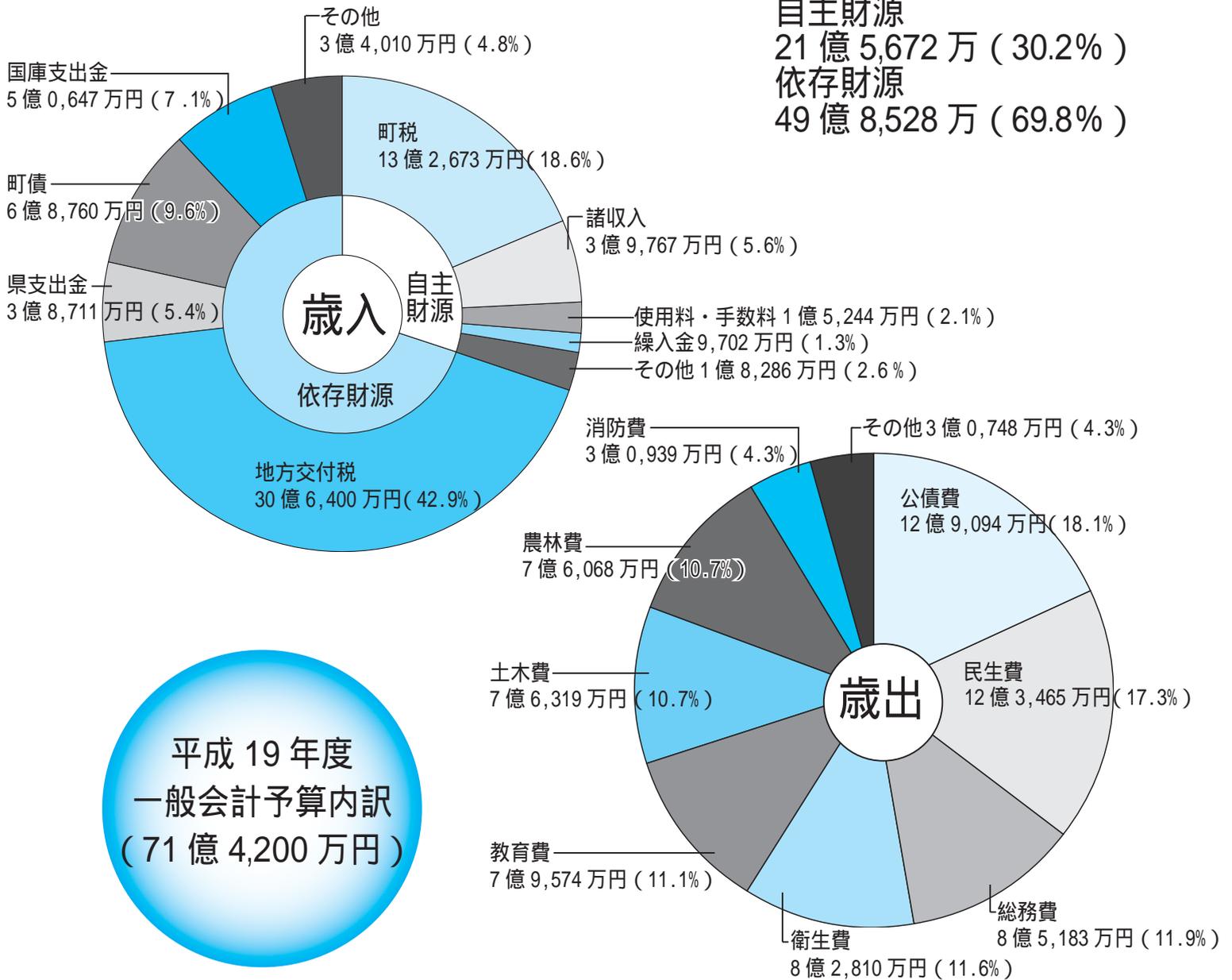
や町債などの「依存財源」があります。自主財源は一般会計の約30%で、残りの約70%が依存財源です。

地方交付税などの主要財源が減少傾向にあること（地方交付税と臨時財政対策債を合わせると前年比約八千二百八十万円の減）で財政事情は、たいへん厳しい状況です。

この限られた財源の中で、効率的に事業を行い、節度ある財政運営に努めます。

依然厳しい財政状況 平成 19 年度

自主財源
21 億 5,672 万 (30.2%)
依存財源
49 億 8,528 万 (69.8%)



平成 19 年度
一般会計予算内訳
(71 億 4,200 万円)

平成 19 年度の主な事業

地方バス運営費補助金・・・3,941 万円
 情報インフラ整備事業・・・8,300 万円
 障害者自立支援給付費・・・2 億 2,293 万円
 私立保育所運営委託費・・・1 億 0,133 万円
 各種医療費給付費・・・6,747 万円
 各種検診委託費・・・6,437 万円
 新しいわて農業担い手支援総合対策
 事業費補助金・・・3,195 万円

県営畑地帯総合整備事業費負担金・4,935 万円
 町道整備事業・・・4 億 7,153 万円
 都市計画街路事業・・・3,575 万円
 消防施設整備事業・・・1,130 万円
 小鳥谷小学校大規模改造事業
 設計等委託費・・・1,019 万円
 教育用パソコン整備事業・・・450 万円
 公共土木施設災害復旧事業 (過年災) 7,361 万円

狂犬病予防注射を実施します

～ 狂犬病予防法により飼い犬は必ず登録・年に一度は狂犬病予防注射を～

4月1日(日)	
女鹿・鳥海・小滝	
時 間	場 所
8:30～8:40	女鹿口橋
8:50～8:55	岩崎バス停前
9:00～9:15	女鹿館集会所
9:20～9:35	女鹿公民館入口
9:45～9:55	上女鹿公民館
10:00～10:10	焼切橋
10:20～10:25	新田バス転向場
10:40～10:45	蛇ノ島
10:55～11:00	上小友開拓碑
11:15～11:25	大道正一様宅前
11:30～11:40	後反橋そば
11:45～12:00	小友ふれあいセンター
12:05～12:10	川原目バス停
13:00～13:10	小滝神社前
13:15～13:30	袖子田バス停
13:40～13:55	鳥海郵便局前
14:00～14:10	鳥海地区公民館
14:15～14:20	泉田バス停
14:25～14:35	稲荷バス停
14:45～14:50	大屋敷バス停
15:00～15:05	金葛バス停
15:10～15:25	宮田温泉
15:30～15:40	岩清水集会所
15:50～16:00	泉久保清様宅前
16:10～16:30	土屋商店前
16:40～16:45	与羽忠様宅前

春の集合注射を以下日程のとおり実施します。
送付されたハガキの裏面に犬のぐあいを記載の上、持参して下さい。

注射料金は1頭あたり
新規登録の犬 6,100 円
登録済みの犬 3,100 円

4月7日(土)	
小鳥谷・姉帯・面岸	
時 間	場 所
9:00～9:10	高屋敷消防屯所
9:20～9:30	駒木消防屯所
9:40～9:50	道地陸橋そば
10:00～10:40	小鳥谷地区公民館
10:50～11:20	野中 消防屯所
11:30～11:35	小姓堂集会所
11:50～12:05	侍村公民館
12:10～12:20	旧姉帯農協
13:00～13:10	姉帯支所
13:20～13:30	慶寿園入口
13:40～13:50	名子根 集会所
14:10～14:20	面岸 農協倉庫
14:30～14:40	上面岸バス停
14:50～15:00	面岸 開拓倉庫

4月14日(土)	
奥中山・宇別・摺糠	
時 間	場 所
9:00～9:15	袖ヶ沢集会所
9:30～9:55	ポカラ横
10:05～10:15	佐藤研司様宅前
10:20～10:35	奥中山小学校
10:40～10:55	中島健様宅前
11:00～11:20	奥中山公民館
13:00～13:10	久保光廣様宅前
13:20～13:40	沢瀬君男様宅前
13:50～14:05	滝沢信吉様宅前
14:40～15:00	宇別 消防屯所
15:10～15:30	苗圃農協倉庫
15:40～16:00	坂本正幸様宅前
16:10～16:30	旧摺糠小学校

4月15日(日)	
小繫・平糠・火行・旧中山	
時 間	場 所
9:00～9:05	笹目子
9:10～9:25	小繫多目的集会所
9:30～9:35	小繫駅前
9:45～10:00	田子集会所
10:20～10:35	小西重雄様宅前
10:45～11:00	友愛新館
11:10～11:25	小野寺修治様宅前
11:35～11:45	東野正様宅前
11:55～12:05	野尻橋
12:10～12:20	平糠 消防屯所
13:20～13:30	落合集会所
13:50～14:00	大志田建設前
14:20～14:30	釜石集会所
14:40～15:10	新釜石集落
15:20～15:40	旧中山分校
15:50～16:10	上山勘一様宅前

4月21日(土)	
鳥越・檜山・根反	
時 間	場 所
8:30～8:40	八木沢 田村商店
8:45～8:50	鳥越 八木沢橋
9:00～9:20	鈴木正廣様宅前
9:30～10:00	鳥越橋
10:10～10:25	稲葉(孝)商店前
10:30～10:45	鈴木純一様宅前
10:50～11:05	柴田久栄様宅前
11:15～11:25	みず環境公園
11:30～11:45	旧檜山小学校前
11:50～12:00	双畑バス停
13:00～13:20	旧来田小学校
13:40～13:55	子守橋
14:00～14:10	中瀬バス停
14:20～14:35	根反 消防屯所
14:40～14:50	根反珪化木入口
14:55～15:00	野磯鶏分かれ

4月22日(日)	
一戸・西法寺・岩館	
時 間	場 所
9:00～9:20	越田橋公民館
9:30～10:00	農協 野菜出荷場
10:10～10:40	横町集会所前
10:50～11:30	旧一戸小学校跡地
11:40～12:10	岩瀬橋そば
13:00～13:30	永代町集会所
13:40～14:10	西山重男宅様前
14:20～14:50	西法寺公民館
15:00～15:20	農協 一戸支所
15:30～15:45	碧橋駐車場
15:50～16:05	松田理容店前
16:10～16:30	地域伝統交流館

写真は役場前を散歩していたヒロシくん()です

飼い犬の散歩の際にはフンの始末を必ずお願いします。
放し飼いは絶対にやめて下さい。苦情が多く寄せられています。

お問合せは
水環境課 総務・生活環境係
☎33-2111 内線 231 まで

まちの話題

みなさんの地域、職場の楽しい話題の情報をお待ちしています。
広報担当 ☎33-2111 (内線 207) へお気軽にご連絡ください。



式を終えて、記念撮影。新たな仲間とはじめて撮る写真は思い出の1枚になるでしょう。新入生の和田勇大さん。「中学では野球をがんばりたい」と

大 一戸中学校、町のトップ切り、入学式 大きな期待を胸に、迎える春

穏やかな光が降り注ぐ4月4日、一戸中学校(近藤祥衛校長)で入学式が行われ、72人の新入生を迎えました。新入生は少し大きめの真新しい制服に身を包み、終始、緊張の面持ちで式に臨みました。

式では近藤校長が「一戸中学校の伝統である三大勇氣(非行をやらない、ことわる、注意する勇氣)やクリエイトプラン(あいさつの声が高らかな学校、奉仕活動に汗を流す学校、合唱がより響き渡る学校)は学校活動を支えるものです。これらの精神を受け継ぎながらともに努力し、楽しい学校生活にしていきたいでしょう」と式辞を述べました。

式に参加した親御さんからは「友達を大事して、中学校は楽しかったなと思えるような生活を送って欲しい」という声が聞かれました。



手づくりのひな飾りの前で、この組はおひなさまは一人のようです。

新 一戸高校、普通・福祉科、最後の卒業 新たな出発、母校を巣立つ春

澄み渡った空が広がる3月1日、一戸高等学校(岩本文昭校長)で卒業式が同校体育館で行われました。

一戸高校は平成16年度から総合学科高校としてスタートし、同年度から募集を停止した普通科と福祉課の3年生145人は最後の卒業生となりました。

卒業式では岩本校長から普通科の野田実由姫さんと福祉科の古里千春さんに卒業証書が手渡されました。卒業生を代表し、藤村美香さんが「それぞれの夢に向かい、歩いていきます」と答辞を述べました。



岩本校長から卒業証書を受ける普通科の野田実由姫さん

今 地域の人とへっちょこだんご作ったよ 日はとても楽しいひなまつり

3月2日、一戸保育所(小山内邦彦所長)では園児と地域の人が合同でひな祭りを行いました。園児は横町公民館(土川健太郎館長)で地域の人との協力を得ながら、へっちょこだんごづくりに挑戦。だんごづくりに園児から「上手にできた」という声が聞かれました。

次に保育園へ移動し、自分たちで作ったへっちょこだんごやのり巻きなどのごちそうに園児はおいしそうにほおぼり、おかわりをする姿が見られました。

鳥越婦人会による「千年太鼓」。おいに盛り上がりました



磨いた演芸、華やかな競演

一戸町地域婦人団体協議会（志馬田京子会長、会員242人）は2月25日、コミュニティセンターで第28回町婦協演芸大会を開催しました。町内12単婦が参加し、900人を超える観客が訪れました。

各地区の婦人会と特別出演3団体が趣向を凝らした38演目が披露されました。特別出演では親交のある奥州市婦人連絡協議会の健康運動「天空アテルイ」や健康福祉課から健康づくりや国民健康保険に関するお話、小友神楽の「盆舞」が行われました。

同協議会は今後も活動を通じて、学びや楽しみみの輪を広げながら、より良いまちづくりを目指します。

おふれあい弁当、今年もみなさんのもとへ 弁当とまごころを届けて

3月9日、社会福祉協議会（柴田忠孝会長）の主催、民生委員協議会（川底喜八会長）と食生活改善推進協議会（柿木洋子会長）の協力でふれあい弁当245食を作りました。これは一戸地区に住む一人暮らしのお年寄りに手づくりの弁当を届けようと10年ほど前から継続して、行っているものです。

弁当作りは食生活推進協議会員21人が調理を行い、それを民生委員が地域のお年寄りに届けました。お弁当を食べた方は「すごく、おいしかった」、食生活推進委員からは満足げに汗をぬぐながら、「毎年、味付けや彩りを工夫しながら作り、今年もおいしそうにできました」と言う声が聞かれました。



おいしそうなお弁当。カラーでお見せできないのが残念

町の文芸

短歌

臥しをりて真昼の音を聞きをれば
軒に来て鳴く小鳥いとほし
山々の連なる裏に我が生家
今は廃屋部落もろとも
雪降る日寒くないかと肩を抱く
夫と歩いた盛岡の夜
決まったぞ縁談昨日決まったぞ
此の家に春が今来たりけり
人住みし時のままなる隣り家に
つみ置く薪の切り口かはく
冬らしき冬になりしと思えども
積む大雪はこころ凍らす
三方は高層のビル片隅に
小さき社の鎮もりてをり
作り置く梅酒取り出し飲みにつけり
効能頼み長びく風邪に
旅立ちの十五の孫は祖父母らに
「必ず来る日だ子離れせよ」と
語り来る逝きし友等の声優し
しみじみと聴く独り居の夜

俳句

短日や留守の佛に灯をともし
旧暦の正月むかしわらべかな
みどりの児の笑いはじめし初便り
万作の黄のあわあわと華やげり
猫柳片手に話はずみけり
暖冬の不安抱かせ二月ゆく
初風呂の露天の空の色深し
廃校はいま集会所餅の花
マラソンや都市ど真ん中春の雨

関根	根反	柴田	東山	高木	中館	岩淵	女鹿	駒木	秋影	佐藤	柴田	中村	中村	朴館	初森	岡田	馬林	滝沢	仁昌寺
玲与	子之	のぞ	智満	木良	館の	木村	鹿子	秋子	影	大	田	の	ち	ち	テ	湖	京	通	洋
子			里	実	子	子				曉	サヨ子	ぶ	よ	ゑ	ル	草	子	江	子

二月短歌・俳句会
会場 小鳥谷地区公民館



★
一
等
星

一歳になったよ



にちか
中村 日香ちゃん
(中山家向)
平成 18 年 4 月 23 日生まれ
お父さん 保さん
お母さん みどりさん
お父さん、お母さんから一言
いつもにこにこ
元気いっぱいすくすく育ってね

米澤 牧子さん
まいさわ・まきこ 22歳
いちのへ調剤薬局勤務
かわいらしい笑顔の米澤さんはいちのへ調剤薬局の受付でお客様をいつも温かく迎えている。
仕事を始めて一年半、「職場のスタッフからアドバイスなどしてもらいながら、仕事の責任を強く感じています」と表情を引き締める。
自分の仕事を何度も見直したり、先輩からチェックや指導してもらっ

優しいおばあちゃんが小さなころから大好きで、この仕事を選びました。今も、かわいがってもらってます。

たりと社会人として勉強の毎日だ。今後の目標は「保険のことなど、いろいろな情報を自分のものにし、お客様一人ひとりにしっかり役立てるようになりたい」ときっぱり。
今の仕事に「小さいころから、かわいがってくれたおばあちゃんに恩返しする意味もあるのかもしれない」と自分の思いを振り返る。
Q 趣味は 写真を撮る(特に雲)
Q 好きなタイプ 優しく誠実な人
Q 自分を一言で おっちょこちょい

✂ 高橋賢治さん、図書館に多くの資料を寄贈
書館に、また大切な宝物



図書館の初代館長、高橋賢治さんが菅江真澄に関する貴重な資料を図書館に寄贈しました。

菅江真澄は江戸時代後期の旅行家、博物学者で寄贈した高橋賢治さん(右) 一戸の地も訪れました。

広報クイズ

~一戸町共通商品券~
(1,000円分)
3人にプレゼント!

前回の広報クイズの答えは「(3)R」でした。橋本チヨ子さん(切掛) 触沢洸佑さん(宇別) 吉谷地千春さん(岩手町)が当選者です。おめでとうございます。

広報クイズは次の二問です。
問題一 三月三十一日で閉校し小鳥谷小と統合した小学校は?
「小学校」(ひらがな可)
問題二 今月の広報を読んでの感想、意見をお書きください
ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢(学校名・学年)、電話番号を記入して
〒0218-5391
一戸町高善寺字大川鉢24-9
広報クイズ係まで。
(四月二十五日締め切り)
余白スペースに町政への提言等をご自由にお書きください。

★ 一 等 星

職場や地域の一等星を募集しています。自せん、他せんは問いません。ご連絡は広報担当まで、お願いします。

一歳になったよ

5月に1歳を迎える赤ちゃんの笑顔の写真を募集します。ご希望の方は4月25日までに広報担当まで。

中央の様子は柴田外男広報編集委員(大塚)がデザインしました

保健カレンダー

乳児・1歳児健診

(4ヶ月児、7ヶ月児、1才児)

5月8日(火) 13:00 ~ 保セン
ポリオ予防接種

4月18日(水) 13:00 ~ 保セン

5月2日(水) 13:00 ~ 保セン
BCG予防接種

4月24日(火) 13:00 ~ 保セン

5月9日(水) 13:00 ~ 保セン

結核・肺がん・基本健診・大腸検診

受付時間 午前9:00 ~ 11:00

午後1:00 ~ 2:30

4月11日 奥中山農業団地センター

4月12日 午前 奥中山農業団地セ

午後 宇別へき地保育所

4月16日 午前 来田交流センター

午後 旧植山小学校

4月18日 午前 小繋多目的集会施設

午後 田子公民館

4月21日 姉帯多目的集会施設

4月23日 鳥越小学校(午後1:30)

4月25日 午前 翔遊館

午後 月館公民館

4月26日 午前 小友公民館

午後 上小友公民館

4月27日(時間は以下のとおりです)

8:30 ~ 9:30 根反公民館

10:30 ~ 11:30 中女鹿公民館

13:30 ~ 15:00 女鹿館公民館

5月7日 午前 宮田温泉保養所

午後 出川町つどいセ

・助産師の妊婦・産婦・新生児家庭

訪問と栄養士の栄養相談・家庭

訪問を行っています。

詳しくは総合保健福祉センター

(上記連絡先)まで

国保係からのお知らせです。

入院時の窓口での支払いが 「自己負担限度額」までになります

平成19年4月から70歳未満の方が入院したときの窓口での医療費負担が軽減されます。

平成19年3月までは自己負担分(医療費の3割又は2割)を全額負担して、あとから申請により限度額を超えた分が支給されましたが、4月からは「限度額適用認定証」を医療機関に提示することで、入院時の窓口での支払が限度額までとなります。そのためには入院前に健康福祉課国保係に交付の申請が必要です。

(注) 保険税を滞納している人は「限度額適用認定証」の交付が受けられませんので、これまでどおり窓口で医療費の3割又は2割を全額自己負担していただきます。

保険税は、国保会計を運営するための大切な財源ですので、納期までに納付くださるようお願いいたします。詳しいことは、健康福祉課国保係までお問合せください。

高齢期からの健康づくり
年とともにあらわれる「老化」はある程度仕方ないこと。しかし、そのまま放っておけば、体は弱るばかりで、生活上で支障が出たり、趣味を楽しむ意欲がなくなったり

地域包括支援センターから
お知らせです

「長寿」から 「元気で長生き」へ



基本チェックリスト	回答	
1 バスや電車で1人で外出していますか	0.はい	1.いいえ
2 日用品の買物をしていますか	0.はい	1.いいえ
3 預貯金の出し入れをしていますか	0.はい	1.いいえ
4 友人の家を訪ねていますか	0.はい	1.いいえ
5 家族や友人の相談にのっていますか	0.はい	1.いいえ
6 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	0.はい	1.いいえ
7 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0.はい	1.いいえ
8 15分位続けて歩いていますか	0.はい	1.いいえ
9 この1年間に転んだことがありますか	1.はい	0.いいえ
10 転倒に対する不安は大きいですか	1.はい	0.いいえ
11 6ヵ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか	1.はい	0.いいえ
12 BMIが18.5未満ですか(BMIの求め方は下記を参照してください)	1.はい	0.いいえ
13 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1.はい	0.いいえ
14 お茶や汁物等でむせることがありますか	1.はい	0.いいえ
15 口の渇きが気になりますか	1.はい	0.いいえ
16 週に1回以上は外出していますか	0.はい	1.いいえ
17 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1.はい	0.いいえ
18 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	1.はい	0.いいえ
19 自分が電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0.はい	1.いいえ
20 今日が何月何日かわからない時がありますか	1.はい	0.いいえ
21 (ここ2週間)毎日の生活に充実感がない	1.はい	0.いいえ
22 (ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1.はい	0.いいえ
23 (ここ2週間)以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	1.はい	0.いいえ
24 (ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない	1.はい	0.いいえ
25 (ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする	1.はい	0.いいえ

基本健診で65歳以上が行う基本チェックリスト

し、生活の質を低下させます。四月から実施されている基本健康診査では、65歳以上の方を対象に、介護予防の観点から日々の生活を維持していくための心身の能力をチェックする「基本チェックリスト」(生活機能評価)が行われます。

また、基本健康診査をきっかけに今まで気づかなかった自分の日常生活における障害や危険な老化のサインに気づき、毎日の生活の中で健康づくりを実践していくことが大切です。

地域包括支援センターでは、基本チェックリストの結果、介護予防プログラムへの参加が望ましい方を対象に運動・口腔・栄養等の各種教室や、必要に応じ家庭訪問を行っています。

詳細については、上記連絡先(地域包括支援センター)まで、お問い合わせください。

健康づくりで、医療費1億円削減運動実施中!

平成 19 年度 町職員人事異動



田頭圭太
生涯学習課



沼山智佳
健康福祉課保健師



下川 淳
健康福祉課保健師



田中泰士
産業課

新採用職員（一般事務職 2 人、保健師 2 人）をお知らせします。よろしくお願ひします

（ ）内は前職です。職名については部課長及び所長のみとさせていただきます。

- 総務部総務課
 - 西館輝彦（産業課） 鈴木
 - 麻矢（生涯学習課） 田村淳
 - （産業課）
 - 総務部まちづくり課
 - 課長 柴田一美（水環境課）
 - 澤久保貴弘（健康福祉課）
 - 総務部税務町民課
 - 課長 田頭忠（小鳥谷支所）
 - 長兼姉帯支所長 小倉浩二
 - （地域整備課） 鈴木京子（総務課） 片野優子（健康福祉課）
- 福祉部健康福祉課
 - 福祉部部長兼健康福祉課長兼健康相談室長総合福祉センター所長 上平龍一郎 柴田忠幸（産業課） 田中明美（税務町民課） 土屋邦雄（学校教育課） 下川淳（新採用保健師） 沼山智佳（新採用保健師）
 - 産業部産業課
 - 佐藤代和（まちづくり課）
 - 田中泰士（新採用）
 - 建設部地域整備課
 - 長山哲也（水環境課）
 - 建設部水環境課
 - 課長 小野寺俊勝（同課長補佐） 坂ノ上一成（食育センター） 荒屋敷雅章（総務課）
 - 会計課
 - 課長 片野修（総務課）
 - 久保亜希子（生涯学習課）
 - 小鳥谷支所
 - 支所長兼姉帯支所長 鈴木純一（奥中山支所長）
 - 奥中山支所
 - 支所長兼姉帯支所長 鈴木純一（奥中山支所長）
 - 奥中山支所長 吉田豊喜
 - （税務町民課）
 - 生涯学習課
 - 田頭圭太（新採用）
 - コミュニティセンター・図書館
 - 泉山忠徳（健康福祉課）
 - 食育センター
 - 柴田忠義（総務課）
 - 農業委員会
 - 事務局長 上村博（産業課兼参事兼課長補佐） 土岐良輔（コミュニティセンター・図書館）
 - 保育所
 - 鳥海保育所長 相馬ちづ子
 - （小繋児童館長） 鳥越児童館長 平井千保（鳥海保育所）
 - 小繋児童館長 永田節子
 - （鳥越児童館長） 鳥海保育所
 - 遠藤優子（奥中山保育所）
 - 鳥海保育所 櫻井美紀子
 - （奥中山保育所） 奥中山保育所 中村優子（宇別へき地保育所） 奥中山保育所 鈴木優子（鳥海保育所）
 - 退職者
 - 林野栄五郎（福祉部部長）
 - 大平賢一（税務町民課長）
 - 柴田和夫（会計課長）
 - 袖子田三男（税務町民課）
 - 柴刈政樹（税務町民課）
 - 川又秀一（地域整備課）
 - 中瀬惣悟郎（農業委員会）
 - 田村茂信（農業委員会）
 - 小野寺三男（総務課）
 - 齋藤昭三（総務課）
 - 澤山誠一（地域整備課）

一戸町スポーツ賞 奨励賞のお知らせ



- 佐藤 翔かぜ（一戸小学校四年）
- 二〇〇七全国小学生アルペンスキー大会出場
- 柴田大ひさかず（一戸南小学校六年）
- 第27回ジュニアアルペンスキー東北結晶大会出場

選考委員会終了後に大会出場が決まりましたので、改めて受賞となりました。（所属校・学年は受賞時のものです）

一戸交番だより



一戸交番 ☎33-3059

『新入学児童・園児の交通事故防止』

幼稚園・保育園や小学校に上がると、友達も増え行動範囲が広くなり、屋外の遊びも多くなります。交通事故は最も身近な危険です。みなさんの力で子供たちを交通事故から守りましょう。

大人のみなさんがお手本です

子供は大人の行動を見ており、良いことも悪いことも真似しま

す。日ごろから正しい交通マナーを実践して手本を示しましょう。

通学路等の点検をお願いします

子供と一緒に通学路を歩いてみましょう。注意しなければならぬ危険な箇所が見えてきます。

子供の特性を理解した運転を心がけましょう

子供たちはとっさの判断が出来ず、飛び出しなど危険行動をしがちです。子供を見かけたら、スピードを落として通行しましょう。

《平成 19 年交通事故発生状況》

- ・人身事故 4 件（前年数 6 件）
- ・死者 0 名（前年数 0 名）
- ・傷者 5 名（前年数 10 名）
- ・物損事故 56 件（前年数 55 件）
- ・飲酒運転 0 件（前年数 1 件）

（2 月末現在）

休日当番歯科医
 4月15日 ムカイダ歯科クリニック
 ☎46-4636 (軽米町)
 22日 森川歯科医院
 ☎23-6361 (二戸市)
 29日 渡辺歯科医院
 ☎23-2052 (二戸市)
 30日 窪島歯科医院
 ☎23-2425 (二戸市)
 5月3日 岩淵歯科医院
 ☎32-2238 (一戸町)
 4日 ますだ歯科クリニック
 ☎26-8282 (二戸市)
 5日 ほんだ歯科クリニック
 ☎23-9591 (二戸市)
 6日 こしみず歯科クリニック
 ☎33-4618 (一戸町)
 診察時間 午前9時から正午

休日当番医
 4月15日 小原内科医院
 ☎23-3410 (二戸市)
 22日 藤田内科
 ☎38-2772(二戸市浄法寺)
 29日 二戸クリニック
 ☎25-5770 (二戸市)
 30日 すがわら消化器内科
 ☎23-2879 (二戸市)
 5月3日 金田一診療所
 ☎27-2205 (二戸市)
 4日 むらかみ医院 ためのクリニック
 ☎48-1500 (軽米町)
 5日 よこもり眼科クリニック
 ☎22-2230 (二戸市)
 6日 千葉耳鼻咽喉科・小児科
 ☎23-2009 (二戸市)
 診察時間 午前9時から午後5時

母子自立支援プログラム策定事業

県ではハローワークと連携し、児童扶養手当受給者を対象に、就労促進による母子家庭の自立支援を実施しています。

[問]健康福祉課 ☎32-3700 内 604
 二戸地方振興局 ☎23-9202

春の農作業月間です

4月15日から6月15日は農作業安全月間です。農業用機械の使用が多くなる時期です。安全に農作業が行えるよう、機械の点検、整備をきちんと行い、使用する際は細心の注意をはらいましょう。

相談

二戸地区無料法律相談

日時 4月24日、5月8日
 午前10時から午後3時まで
 場所 二戸市役所 1日10人まで

対象 二戸管内4市町村の住民
 予約受付 二戸市市民生活部

[問]生活環境課 ☎23-3111

岩手弁護士会 ☎019-623-5005

健康相談室からのお知らせ

場所 まちの健康相談室
 (ショッピングセンターイコオ内)

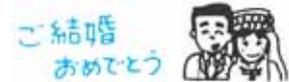
時間 午後1時から4時
 ・18日 こころの悩み事相談
 ・19日 骨年齢測定
 ・23日 介護相談
 ・25日 心配事相談
 ・5月2日 こころの悩み事相談
 ・9日 心配事相談
 4月から毎週金曜日、午後1時
 ~ 4時にフットケアを行います。
 希望の方はタオルを3本持参ください。(1回3人以内)
 [問]まちの健康相談室 ☎33-4535

戸籍だより

(2月届出分)



名前	保護者	住所
川村 愛莉	昭博	高善寺大川鉢
小谷 菜太	大輔	鳥越上野平
峠 慧汰	直樹	月館金葛前田
女ヶ澤 綜磨	秀哉	小鳥谷川向
久保田 倫来	太一	岩館沢田



名前	住所
久保 悟	中山上家向
立花 美香	岩手町
西館 祐太	宇別中村
漆原 しおり	奥中山西田子
伊藤 大幸	一戸越田橋
菊池 真弓	釜石市

ごめい福を お祈りします

名前	住所	年齢
高岸 久治	小鳥谷道地	78歳
猪股 精太郎	女鹿江六前	78歳
露木 子ミ	高善寺野田	82歳
釜石 金太	中山家向	81歳
日影館 榮弘	高善寺野田	85歳
松館 ヒテ	西法寺諏訪野	88歳
荒屋敷 章八	月館薬師堂	80歳
竹沢 雄一	一戸向町	71歳
森 クマ	岩館沢田	80歳
田ノ岡 カン	平糠名子根	77歳
宮野 與一郎	一戸北館	89歳
一井 清	高善寺大川鉢	91歳
関根 ヒヨ	一戸大沢	91歳
猪股 カネ	女鹿蛇ノ島	83歳
中村 ハナ	根反中瀬	93歳
宮野 イサ	一戸本町	80歳
山口 祥三	一戸砂森	60歳
野中 敬吉	小鳥谷野中	78歳
平野 妙子	高善寺野田	64歳
大久保 茂志	小繫西田子	73歳

(敬称略)

広報への掲載を希望しない方は届け出の際に、戸籍係にお申し出ください

そよかぜ号

自動車文庫日程

4月11日 楢山保育所~高速隊駐車場~一戸南小
 12日 鳥越~越田橋~一戸学童クラブ
 18日 一戸南小~中山の園~奥中山中
 19日 小繫~小鳥谷~慶寿園
 20日 奥中山保育所~カナン牧場~奥中山小
 25日 諏訪野~中里児童館~鳥海
 26日 一戸幼稚園~鳥海中~一戸南学童クラブ



保育施設開放

・鳥海保育所 5月8日(火) ☎32-2220
 9:30~11:00
 ・小鳥谷保育所 5月8日(火) ☎34-2524
 10:00~11:30
 ・奥中山保育所 5月8日(火) ☎35-2319
 9:00~11:00
 ・一戸子供の家保育園 子育てサークルのびのび ☎33-2859
 4月21日(土)、28日(土) 9:30~
 ・おいでおいで(検診室を開放します)
 5月20日(金) 10:00~



まちの お知らせ ひろば

4月

4日～22日 小原孝郎
遊びの...小品造形展
コミュニティセンター

15日(日) オカリナに絵を描くぞ
御所野縄文博物館
午前9時30分から

22日(日) 手芸工芸館手づくり市
手芸工芸館
午前10時から

28日(土) としょかん映画会
町立図書館
午前11時から

29日(日) わわわのステージ
コミュニティセンター
午後1時から

5月

3日(祝) 御所野縄文むらまつり
御所野縄文公園
午前10時から

6日(日) 第1回町民芸術鑑賞教室
岩手県民会館「マイフェアレディ」
文セン午前9時発 [申込] コミセン

人の動き(3月1日現在)

人口	15,613人	(-20人)
男	7,547人	(-15人)
女	8,066人	(-5人)
世帯数	5,870世帯	(-3世帯)
	()内は前月比	
転入	19人	(33人)
転出	22人	(50人)
出生	5人	(9人)
死亡	22人	(40人)
()内は平成19年1月からの累計		

イベント [問]=問合せ 申込みは

5月30日は「チャレンジデー」

すっかりおなじみとなったチャレンジデーは今年で5回目、今年もはりきって町民健康づくりの日にチャレンジしましょう

対戦相手 鹿児島県 知覧町ちらん

位置 薩摩半島の南部中央

特産 お茶・さつまいも・焼酎

[問] 総合運動公園 ☎33-4444

いわて子どもの森4月のイベント

14日「色イロであそぼ」

対象 3歳から就学前の親子

時間 午後1時から2時30分

15日「スペースカーバグといちごエプロンをつくろう」

対象 小学生以上20人

時間 午後1時から3時

スプリングフェスティバル2007

4月29日 劇団わらび座アンサンブル

5月3日 TAGさんのらくがきワークショップ

5月4日 劇団すぎのこ人形劇

5月5日 ナターシャ・グジーコンサート

[問]いわて子どもの森 ☎35-3888

救急蘇生普及・生きがい支援講座

緊急時における救護の基本知識と手当ての技術の取得や講話などを行います。多くの参加者をお待ちしています。

日時 4月14日 午後1時半～

場所 ワークインにのへ

[問]二戸ライフセーフティボラン

ティア事務局 西村 ☎24-402

AEDを用いた救急救命講習会

心肺蘇生法、AED(自動対外式除細動器)の取扱いと実技訓練を行います。受講者にはAED一般普及講習修了証書を交付します。

日時 4月20日 午後6時～

場所 二戸市総合福祉センター

[問] 二戸地方振興局 ☎23-9206

二戸市総合福祉センター ☎23-1313

お知らせ

軽自動車・固定資産税の

減免について

1. 軽自動車の減免対象

身体等に障害のある方で、歩行が困難な方が所有する軽自動車

2. 固定資産税の減免対象

生活保護を受けている方が所有する固定資産、および公民館・集会所、消防屯所等

上記減免を受ける場合は、4月24日(火)までに納付書を添えて、役場町民課まで申請してください。

[問]税務町民課 ☎33-2111 内124

消防用サイレン町内一斉吹鳴実施

4月1日から火災発生時に町内全域を対象に一斉吹鳴しますので、ご理解とご協力願います。

[問]総務課 ☎33-2111 内208

素人工事は危険です

電気設備工事の素人(無資格)工事はやめましょう。電気工事店など専門家にお願ひしましょう。

[問]東北電気保安協会 ☎25-4194

町民割引券について

奥中山高原では町民のみなさんが温泉を利用しやすいよう、左の割引券を発行します。

点線で切り取り、入浴時にフロントに提出すれば左記の料金になりますので、ぜひご利用ください。

朝朱の湯大浴場



奥中山高原温泉・スキー場 町民割引券(H19.4.30まで有効)

この券で朝朱の湯・煌星の湯の日帰り入浴、スキーのリフト1日券が下記金額でご利用できます。(本券1枚につき1人有効。温泉入浴がリフト1日券、どちらか一方にしか利用できません。煌星の湯ご利用時に本券を使用した場合、貸しタオル、ヨーグルトはありませんので、ご了承ください。)

	煌星の湯	朝朱の湯		
おとな	600円	500円	500円	300円
子ども	300円	250円	250円	150円
	スキーリフト券(1日券)			
おとな	2,100円			
子ども	1,400円			

奥中山高原温泉・スキー場 町民割引券(H19.4.30まで有効)

この券で朝朱の湯・煌星の湯の日帰り入浴、スキーのリフト1日券が下記金額でご利用できます。(本券1枚につき1人有効。温泉入浴がリフト1日券、どちらか一方にしか利用できません。煌星の湯ご利用時に本券を使用した場合、貸しタオル、ヨーグルトはありませんので、ご了承ください。)

	煌星の湯	朝朱の湯		
おとな	600円	500円	500円	300円
子ども	300円	250円	250円	150円
	スキーリフト券(1日券)			
おとな	2,100円			
子ども	1,400円			



始まってます 地域の笑顔をしっかりつなく 健康づくり教室。

④岩館地区の健康体操
⑤榎山地区では保育園児と
いっしょに1・2・3!
⑥鳥海地区での血圧測定、
体調はいかがですか？

健

康づくりは地域から。
各地域で健康づくり教室
が行われています。みなさん
も誘い合い、気軽に足を運
んではいかがでしょうか？

榎山自治公民館（坂ノ上一
成館長）の女性部による「た
んぼぼの会」や岩館自治公民
館（東森嘉正館長）「さわや
か教室」は月一回ほど地域住
民が集い、開催しています。
健康福祉課から保健師、作業
療法士などを招いて健康体操
や会食など行っています。

各公民館ではその特色を活
かし、なじみの顔がそろえば、
会場は笑い声が絶えません。
他に小鳥谷地区公民館（鈴
木純一館長）、野田自治公民
館（野田勝治館長）、袖ヶ沢
自治公民館（馬場保光館長）、
関屋自治公民館（高橋賢治館
長）などで同様の取り組みが
行われています。
健康福祉課は鳥海地区「翔
遊館」、奥中山地区「おた達
者か〜ん」でも同様の教室を
行っています。

各地区の健康づくり教室で活動を行っている方にお話を聞きました

Interview



榎山地区
上平 公子さん
かみたいら・こうこ

健康づくり教室は榎山地区では2年ほど前から月1回、地域住民20人ほどで集まり、活動しています。

この健康づくり教室とは別に十数年前から榎山地区女性部の「たんぼぼの会」を結成し、みんなで集まって、お墓の草取りごみ拾いなども行っています。

地域の人、みんなで笑いながら活動できるのが一番。今後も続けたいです。



岩館地区
鎌田 ツヤさん
かまた・つや

岩館地区では、保健推進委員、食生活推進委員、民生委員、お元気サポーターなどの協力を得て、「やまびこ教室」を行い、いろいろな活動をしています。

地区のみなさんが誘い合って、良い雰囲気で行っています。今後はさらに草取りなどに活動を広げていきたいですね。

そうそう、この間、みんなでお地藏さんのお洋服作ったんですよ。（写真右上）

編集後記

今年度も広報担当として、二年目に突入することになりました。「初心を忘れず」という言葉が頭をよぎりますが、正直言って、本当に慣れず、初心のままです。今でもカメラを持ち、取材となると緊張します。取材の奥中山小の入学式で、どうしていいのかわからず、後ろでカメラ撮影しかできなかったことを今でもよく思い出します。気持ちも新たに、さまざまなことに挑戦したいと思えます。今後もしろいろな声を聞ければ、とてもうれしく思います。それでは今年度もよろしく願います。（久保田）

広報

いっしょ

平成19年4月13日

編集・発行
一戸町・一戸町広報編集委員会
〒028-5391 0195-33-2111 内線207
岩手県二戸郡一戸町高善寺字大川鉢24-9
ホームページ <http://www.town.ichinohe.iwate.jp>
広報メール kouhou@town.ichinohe.iwate.jp